

経営比較分析表（令和3年度決算）

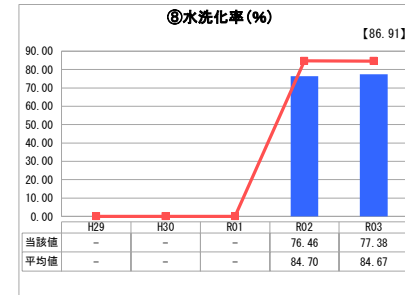
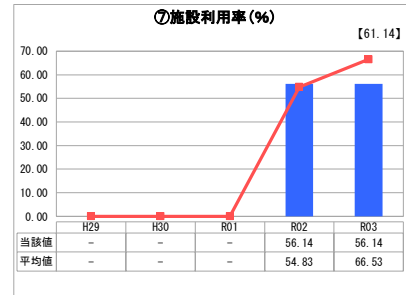
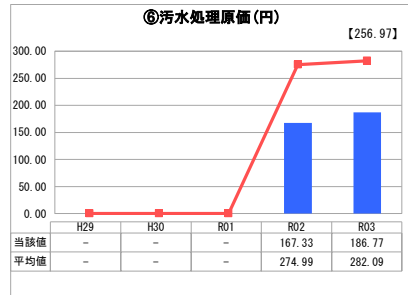
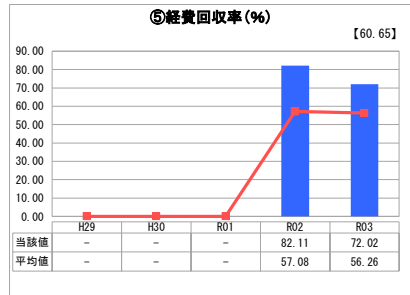
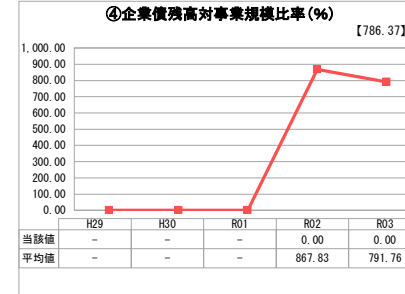
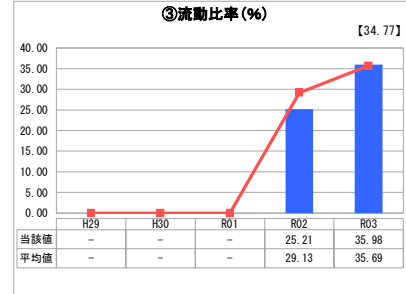
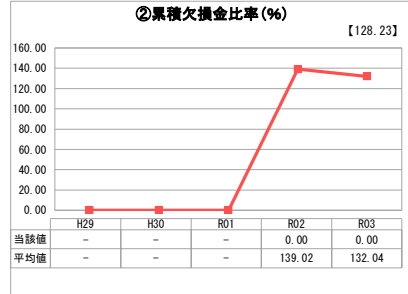
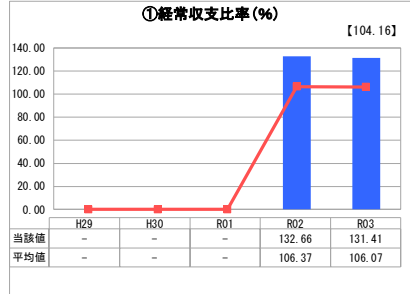
栃木県 壬生町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	64.71	13.33	101.89	3,780

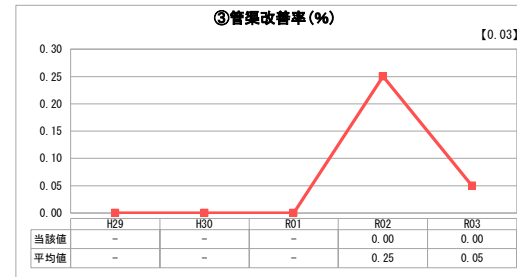
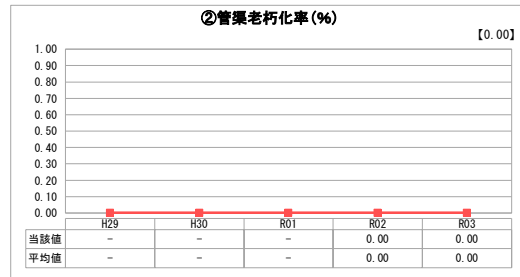
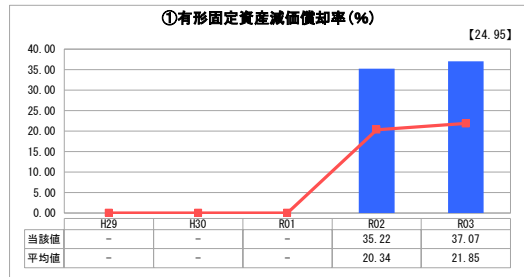
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,831	61.06	635.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,154	3.78	1,363.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度から地方公営企業法を適用したため、ニヶ年での比較になります。

①経常収支比率は、引き続き100%を超えており、黒字の状況ですが、一般会計からの繰入金には基準外繰入金もあるため、基準外繰入金を削減しても100%を超えるように経営する必要があります。

②累積欠損金比率は、引き続き0%であり、累積欠損金が計上されていない状況です。

③流動比率は、上昇し類似団体と比較して近い数値となりましたが、流動負債には建設改良費等に充てられた企業債が含まれており、これらの財源により整備された施設について、将来、償還・返済の原資を使用料収入等により得ることが予定されています。

④企業債務高対事業規模比率は、引き続き100%を下回っており、汚水処理に係る費用が使用料以外の収入により賄われている状況です。適正な使用料の検討や汚水処理費の削減が必要と考えます。

⑤経費回収率は、引き続き100%を下回っており、汚水処理原価は、類似団体と比較して、引き続き低い数値ではありますが、今後も更なる経費の削減に向けた取組が必要です。

⑥施設利用率は、昨年度と変わりませんが、類似団体と比較して低い数値となっています。

⑦水洗化率は、類似団体と比較して引き続き低い数値となっています。平成29年度に供用開始した地区の接続が増加しており改善傾向にありますが、使用料収入の確保を図るため、今後も水洗化率向上のための取組が必要です。

2. 老朽化の状況について

令和2年度から地方公営企業法を適用したため、ニヶ年での比較になります。

①有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較して引き続き高い数値となっています。処理施設において、平成8年度に供用開始した施設の老朽化が進んでいるため、定期的な点検を基に、計画的に施設の修繕・更新を実施していく必要があります。

②管渠老朽化率は、耐用年数を経過した管渠はありませんので、0%となっています。

③管渠改善率は、耐用年数を経過した管渠はありませんので、0%となっています。

全体総括

農業集落排水事業は、令和元年度に着手した7地区目の整備と既存の6地区の維持管理を実施しており、7地区目の整備が完了する令和5年度までは事業費の増加が見込まれます。

経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むために令和3年1月に改定した経営戦略に基づき計画的に事業を実施するとともに、今後耐用年数に達する施設の統廃合について検討する必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。